

立山の紅葉が報道され、秋晴れの青い空が気持ちのよいこの頃です。

今日は、イズミ オキナガさんが 提案をさせていただきます。

提案テーマは、「マキムクの日代の宮」

・・・m-k 音の意味を考える・・・

提案後には、皆さんから率直なお意見を聞かせてください。

どんなことでも、感じられたこと、思ったこと等聞かせてください。

尚、今回は、富山大学の服部征雄先生に

「古事記にみる和薬と香木」とのテーマでご講演いただきました。

◎ 思ったこと (お礼の文より拾ってみました。)

「古事記にみる和薬と香木」と題し、内容の濃い、興味深いご講演をしていただき、一同大変有意義な時間となりました。ご多用の中、お願いしましたが、古事記を読み始めたばかりの仲間達にも分かりやすく、カラー写真で沢山の資料をご準備いただき、又別にお話の順に詳しく文書資料までも配布いただき、ありがとうございます。おしべが上に付いたガマの写真はなかなか見られない物だそうで、鮮やかに撮影された写真を手がかりにその違いを教えていただきました。そのおしべに薬効があること、日本最初の和薬の記載が古事記にあることも、薬学博士の先生からお伺いすることで会員の心に沁みました。

古事記に カツラ が見えるのは、神代『天若日子』の段と、『海佐知毘古と山佐知毘古』であり、どちらも、「湯津香木」と表記され、それが 注に読みを「加都良」と示されていることに気づきました。湯津香木：神聖な桂と読むのがこれで、今の桂の木を意味することを初めて知りました。言葉や原文の漢字をよく見ないで、安易に音読していたことを反省しました。中国のカツラと日本のカツラでは木が違うこと、しかし、どちらも香りがあることなど、共通点があることも興味深く感じました。

では、なぜカツラが神聖な木として、神や神の使いがその場に現れるのか？

先生から大きく引き延ばしたカラー写真の桂（雲南市大東町中湯石）を見せていただき、桂の木には神が宿っているように見えます。水を好み、水源地になるような桂：源流となる桂もあるそうですが・・・。服部先生が長く問題意識をもたれカツラを見てこられたことを、私達に大変興味深く伝えていただき、多くの刺激をいただきました。本当に有難かったです。なぜ違う木をカツラとしたのか？古事記が出来た頃カツラの木を人々がどのように見ていたのか？等様々な課題が生まれました。今後とも御指導賜りますようよろしくお願い申し上げます。

◎ 皆様の感想から (短時間で感想を書いて下さりありがとうございます。)

・桂の木が中国にないこと、「木犀」は中国から入って来たことを知りませんでした。遺跡の調書でも気をつけてみたいと思います。富山には「オオナムチ」の話しが伝わっています。

・ガマが多いという事との関係など、面白いお話しが聞けました。ありがとうございます。

・職業として古事記を読み触れる機会は多いのですが、神社からの視点ではなく、別の視点から古事記に触れることが出来て、大変勉強になりました。

また、海幸・山幸は当社の御祭神ですので、余計に興味深くお話しを聞くことが出来ました。

多久比禮志神社 林 貞文

・参考資料もとても立派で、とてもよく分かりました。

古事記に関してのいろいろな講演、お話しを楽しみに致しております。

・神農さまのことが少しわかりました。

桂などの葉は、若緑のように、眼で見て神聖な感じがします。

・「桂」とひとくちに言っても、様々な解釈、考えがあるのだという事を知りました。文学作品や日本の歴史など、様々な視点から辿っていくと、「桂」は日本人にとって親しみ深いものなのだということが分かり、興味深く思いました。

・ヤマトコトバのカツラ・カヅラは カ【髪】+ツラ【列・連】の掲げる構造かと思われ
ます。(カ【香】よりは)

その点で、日：クズ【葛】と 漢：カツ【葛】などの方が、コトバとして関連をたずねやす
いのではなかろうかと思いました。

・いろんな漢字でカツラと読むことを教えてもらいました。とても面白かったです。

カツラは日本人にとって何か特別な意味があるのかなと思いました。

古事記の物語に注目して読んでいましたが、登場する草花に注目して読むと、また新しい
見方が出来る事を教えていただきました。ありがとうございます。

・今回は、貴重な講習に参加させていただき、ありがとうございました。

ちょうど現代語訳の古事記上巻を読んでいたところなので、因幡の素兎の話は特に興味深
く感じました。桂についても、これまで特に意識して観察したことがなく、この秋は是非、
桂の香りを感じに出かけてみたいと思います。

